

エッセイ
「絵葉書」

20260716



エリー

目次

本文	1
----------	---

本文

若い頃には分からない価値がある。

かつては歩けたので、遠くへ、遠くへと国内を旅行した。

しかし現在は歩くと吐くため、月に2回の病院以外、外出することはない。

海や山はもちろん、空でさえ、遠い病院に行くときにしか、見かけることはない。

わたしの旅のメインは、コンサートだった。

ツイッターだったころ、初め、中間、最後に参加して、育っていくのを見るのが、ツアーの醍醐味と、ファンの誰かがつぶやいていた。

同じ内容のコンサートに、何度も行こうと考えたことがなかったので、びっくりした。

それから、観光したい場所を選んで、体力を考えて間隔を開け、遠征旅行の予定を立てるようになった。

ツアー初戦から、どうしてもできなかった複雑な手拍子が初めてできた時、誇らしくて仕方なかった。

だから地元でさえもう無理になった後、定期的に無理な筋トレを繰り返しては調子を崩していた。

しかし、「歩ける寿命を100歳までのばすなら足裏が9割」(鈴木きよみ)を読み、最期まで自力でトイレに行くことを目標に変えた。

旅行はきっぱりあきらめた。

裁縫も、料理も、体を使う楽しみは、ほとんどできなくなった。

最後にわたしが選んだのは、タロット占いと創作。

しかし、ココナラで依頼を連続して受けたところ、下痢が止まらなくなり、休止するしかなくなった。再開の目処は立っていない。

今は家族だけを占っている。

創作は趣味だが、手書きはもちろん、パソコンの前に座り続けることはもう無理。しかしスマホで寝ながら打てるので、まだ続いている。

過去には、推しに主題歌を歌って欲しくて、プロになりたかった。

そうだ。ゲームをやめれば、もっと早くうまくなって、プロの作家になれるはず！

結果は無理な筋トレと一緒に。脳性疲労で眠くて起きていられなくなる。

邪な気持ちを「叶うわけない」と絶望から剥ぎ取ったら、後には暇潰しのゲームタイムが残った。

やればレベルがあがるから、それなりに達成感を得られる。

しかし、現在のドラクエ 10 はサポート仲間に任せて戦うことが多いため、何かするには短い、なにもしないのは退屈である。

だから、ふと、ずいぶん前にアマゾンで買った、ゴッホの絵葉書 30 枚を眺めることにした。

そして、そういえば、美術館巡りも好きで、絵葉書をお土産に買ったことを思い出す。探したら、きちんとケースにしまわれていた。昔のわたし、ナイス。

元気な時には知らない場所に行きたくて、お土産なんて振り返りもしなかった。

旅行をあきらめた今、軽くて、安くて、手軽な絵葉書が、年寄りの手に優しい。

やっと思い出を振り返る時間になったのだ。

思っているより悪くない。なぜなら、昔より知恵がついて、見えなかったものが見えるからだ。

見切れるほどの大きな岩の塊を眺めていたのが、川を下り、砕けるうちに砂になり、砂浜に腰を着けて、肌触りを楽しむような味わいになった。

対比構造を理解したことで、細部の違いが見えるようになったのだ。

「老いることも悪くない」

初めてそう思えた。

そうなると新しい絵葉書が欲しくなるが、フェルメールを買う気持ちにはならない。

なぜなら、ゴッホは本物の夜のカフェテリアを見たからだ。

知り合いがフェルメールを見に行く計画を立てている。だからお土産に買ってきてもらいたい。

彼女の思い出と共に、わたしのコレクションに加えたい。

エッセイ「絵葉書」20260716

著 者 ELYE

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
